

## 第 50 回 奈良県河川整備委員会 議事概要

1 日 時：平成 21 年 3 月 23 日 14 時 00 分～16 時 30 分

2 場 所：奈良市男女共同参画センター「あすなら」2F 大会議室

3 出席者

委 員 8 名：池淵周一、伊藤忠通、岡田伸子、谷幸三、  
中川一、中島祐子、前迫ゆり、和田萃（五十音順、敬称略）

事務局 4 名：奈良県 徳元河川課長 ほか

4 議事要旨

- (1) 第 49 回奈良県河川整備委員会議事概要の確認
- (2) 大和川水系河川整備計画布留飛鳥圏域の変更について
- (3) 淀川水系河川整備計画における治水対策について
- (4) その他

5 議事内容（主な意見）

5. 1 大和川水系河川整備計画布留飛鳥圏域の変更について

- ・河川改修に伴う橋梁の架け替え等について、何かしらの費用分担は関連の自治体等に求められるという理解で良いのか。  
⇒橋梁の拡幅や質的向上がある場合には道路管理者の負担が生じる。
- ・懇談会開催にあたり、これからの川づくりを思うならば、住民ももう少し川に足を運び、様々な所を見学し勉強しながら視野も広くし、懇談会に臨むほうが効率も良いのではないかと。
- ・懇談会における参加者の意識の啓発や連携をどう醸成していくか、具体的なやり方については検討課題である。
- ・川づくり懇談会の意見で、過去に流木が橋脚に引っかかった事が原因で新川が氾濫した事が指摘されているが、その時の状況を踏まえた上で橋梁の架け替えを検討した方がよい。
- ・新川の河川整備計画への位置付けとその内容等についてはこれでよい。今後、関係市町村長の意見等を聴き、申請等を行ってよい。

## 5. 2 淀川水系河川整備計画における治水対策について

- ・町並川の計画では第1案なら家屋が16軒、第4案なら10軒が立ち退きになるが、こういう立ち退きや曳家、土地の買収は非常に困難でありスムーズに交渉が進まないという事が通例だと思う。社会的影響という事だけでなく、そういう事により工期が延びる事について経済性にどう反映しているのか。

⇒地元交渉が長引いて効果の発現が遅れるという事はそれだけ便益の発現が遅れ、その間、被害が出る可能性があるため、総合的に判断するとそういうところも効果という意味で出てくる。

- ・B/Cが3つの川で随分違うが、これは結果としてその数値が出てくるのか、あるいは目標とする数値があるのか。

⇒結果として数字が出てくる。一般には、B/Cが1を超えていればその投資は妥当であると判断され、1を下回るとその投資に見合った効果が得られず、事業の妥当性に大きな疑問符が付く事になる。

- ・町並川は非常に危険度が高く、緊急を要する問題だと思う。バイパスルート案があるが、バイパスの径を太くして、川をまたいでいる家やその部分に手を付けずに、迂回する方法はないのか。

⇒全部バイパスという方法もあるが、それではバイパス水路ができるまでは安全度が低いままであり良くなならないという事になる。現状は1/2年確率の規模の雨でも溢れるような状況であり、緊急的に2~3年間で1/2年確率ぐらいまでの規模に改修し、その後バイパスで1/10年確率の規模まで安全度を上げる併用案を考えた。

- ・今問題になっている所は、旧榛原宿で、町並みが非常に良く残っており、近世末頃の「あぶらや」と同時期の町並みが残っている。家を立ち退いて川幅を拓げるとなると文化的景観が損なわれる事になり、その点は非常に慎重な判断を要すると思う。こういう文化財の保全と関わる問題についてどの様に考えているのか。

⇒緊急対策区間については、今ある川の断面の底を少し掘り下げる事で最低限の安全度を確保しようと考えおり、家屋や町並み、塀等も含めて悪影響は出ないと考えている。

- ・宇陀川と町並川と山田川というのはそれぞれ川の特徴が違い、それぞれの特徴ごとに検討されているが、最後にはB/Cが決定権を持つような説明になっている。この川を川らしく河川整備するにはどうしたらいいかという議論、視点が必要。

- ・視点としては、宇陀川は奈良県にとって非常に川らしさを残した川であり、この自然は絶対、損なわれないような河川整備であるべきだと思う。遊水地が適当ではないということは、前々回ぐらいで説明を受けたが、遊水地を造る事によって生きてくる生物群集があるとすると、それは、10年では回収できないけれども、今失ったものを20年後には取り戻せるかもしれないという点では、B/Cを超えるメリットがあるかもしれない。その辺はどう考えているか再度聞きたい。

・町並川については、見ての通り、町の中を走る川ではあるが、文化性というのが非常に重要な川である。文化性をどういう風に評価したか聞きたい。

・山田川については、外来種も多く、川としての形態を失っているような状況ではあるが、それを再生するような河川整備をする事により生態系が蘇ってくる川づくりをして欲しい。そういう自然生態系が戻って来る様な川を目指してこの提案になったのか、この工事がB/Cを除いてもやはりベストであるということなのか考えを聞きたい。

⇒今回は治水計画の基本形について説明したが、今後、この治水の計画に環境の情報を落とし、保全するための工夫や回復させるための対策の必要性の検討等、引き続き作業をしていきたい。それにより代替案の比較に戻る様な事があれば再度議論も必要だと考えている。

⇒町並川については、ここの文化的な価値というものを残すべきではないかという視線は非常に大事であると考えており、河川管理上の課題、歴史的な町並の維持・保全、費用面などを総合的に判断すると第3案のバイパス水路方式がベストだと考えている。

・この委員会で町並川の治水対策案の結論を出すのか。また、バイパス工事は何年かかるのか。

⇒河川管理者としては、第3案のバイパス水路方式がベストだと考えているが、それに対し、委員会で色々ご議論いただいて、色々ご助言をいただくというのがこの委員会の位置付けであり、最終的には河川管理者が決める事になる。また、放水路の施工期間は、河川改修に比べ用地補償の問題が非常に少ないため、予算が順調に付けば5年、順調に付かなくても10年はおかからないと考えている。

・宇陀川は非常に川らしい川の趣を残しており、また、大宇陀はかつての城下町でもあり町並みが伝統的建物群に指定され、いい雰囲気である。河川整備を行う場合には、ただ単なる護岸整備だけでなく、大宇陀の再生に繋がるよう、遊歩道の整備などにより魅力的なものにしてほしい。

・多くの断面で流下能力が計画流量に対して不足しているにもかかわらず、30年という整備計画期間の中でこの425mだけを対象としているが、本当にこの425mだけでよいのか。その他の区間はどうか。

⇒河川改修の基本は下流から実施していくことであるが、事業実施区間の425mは人家がはり付いており、溢れると非常に大きな被害が予想されるが、事業が必要な区間全てを30年の計画期間内に終えるのは難しい。下流では周りの土地利用が田畑であり、過去に被害も出ていない。このため、今回の計画で優先的に整備する区間としては、425m区間を位置付けたい。ただ、それにより下流に悪影響が生じる場所については手当をする。現在の予算状況で行くと、事業実施区間は20数年かかると考えており、5年ごとに見直しをする際に、他でも守るべき所が生じた場合には必要な見直しを行っていきたい。

・山田川の説明では、改修状況（確率規模や改修区間など）が分かりにくかったので教えてほしい。

また、流配図については、数字が変わるのであれば流入河川が入っていないと意味がないので情

報がほしい。また、山田川の改修案は、河道付け替え案、河道改修案ともコスト便益が1を越えているが、他には代替案がないということか。

⇒山田川の改修状況については、誤解を招くので今後わかりやすく標記をしたい。

流配についても修正したい。山田川の他の代替案に関しては、谷底を流れている川であり、ダムとか遊水地は場所がないことから、河道の改修方式と一部河川を国道の事業と合わせてバイパスする方式、この二つをありうるべき案ということで比較検討している。

- ・流下能力図で、右岸左岸の流下能力の違いについて説明してほしい。また、流配図は基本になるところなので、流出解析の算出方法を説明してほしい。そのことにより川の違いもまたわかるし、数値の根拠がもう少し理解できるのではないか。
- ・整備手法の比較の中に経済性があるが、効果発現までの時間の長短も代替案を比較する要素だと思う。また、あくまで他の意見が主軸としてあり、B/Cはひとつの評価基準であるというような表現で説明する方がよいのではないか。
- ・河川の整備が環境にどのようなインパクトを与えるのか。今は、洪水が流れる量という形での断面設計になっているが、維持管理も含めて定規断面で流れる疎通能を確保するという意味合いや、場所によっては生態系にどんなインパクトを与えるかなど、これらをセットにした形での資料があればいろんな意見が出てくるのではないか。

⇒流下能力や流出計算については、次回以降に補足したい。

これと合わせて生態系への影響や土砂動態についても、細かいところのチェックはこれから実施することとしている。

- ・環境問題における生物の管理は、実際に工事をする直前とかに具体的な案を出してもらえば生物の専門家の立場として言えるが、そういう機会はあるのか。

⇒今回の整備計画では、あくまでも基本的な考えであり、実際に工事をするときにどういう風にしていくのかももう少し丁寧に見ていく必要があるが、そこまでできていないのが実態ではあり、今後、心がけていきたい。

- ・具体の事業にあたっては、設計段階から専門の先生方の指導・助言を得るとか、施工段階まで目が届くような指導やフォローアップをしなければいけないというのは鉄則である。指導助言は引き続きやってもらう必要はある。

- ・今日は、3河川の治水対策について、河川管理者の考え方や代案等の説明があった。次回以降、各委員からの指摘や質問、補足補強に関する資料等を準備し議論を深めていきたい。

(以上)